

湖に星の散るなり

(昭和十六年寮歌)

切替辰哉君 作歌
岡田和雄君 作曲

一

湖に星の散るなり幽けさよ松の火燃えて
漕ぎ出づる愛奴の漁舟の岸辺佇ち沁々眺む
旅の日ははや暮れゆきぬ夢に酔ひ夢にぞ歎かん
汚れなき心を慕ふ大いなる支笏の湖よ
花若く我汝が許に希望満ち今宵宿らん

二

轟けるかの雄叫びよ創造の歷程一路
新しき使命に捧ぐ幸の今日にしあれば
忍苦して欣求むるところ得べくして得べからざりし
秀麗はしきまことの道ぞ近くして遙かなる哉
若き世の秩序を背負ふ洋々の日と俱にゆかなむ

三

乾坤に伏し祈るなり栄光あれ祖国の生命
決意する光眩ゆく手に取りぬ楡の嫩葉
葉脈の強きを讃ふ草々のたふれ生れて
春青み辛夷咲くなり逍遙の原始林蔭清く
暢び行かん我が民族の逞しき息吹き感じぬ

四

立て歩め光の中を国民の重き責任負ひ
燦めきの星辰は語らひ微香る大地囁きぬ
甦生へる征覇のいくさ祝歌ふ吾等が双頬に
失はじ高きが矜持護り来し伝統の法火
浄らかに燃え熾る刻継ぎ行かな来ん若人に